

文化博物館だより No.85

みなさん、こんにちは。

暦の上では立秋を過ぎていますが、まだまだ暑さが続いています。

今週は博物館実習として、15名の大学生が実習に励んでいます。

1. 大人気！「昆虫大集合！明石と世界の昆虫たち」

連日、会場内に子どもたちの歓声が響き渡っています。巨大カブトムシや入口のカマキリと一緒に写真撮影。小学生のジオラマや観察記録も興味津々の様子。昆虫探検隊の標本の前では、友だちの作った標本をじっくりと観察。明石の湿地を紹介するコーナーには珍しい植物や昆虫の写真パネル。世界の昆虫たちの標本では、「あー、ヘラクレスオオカブト！こっちは、アトラスオオカブト！」「モルフォチョウって本物なんですか？」と驚きの声があがっています。双眼実体顕微鏡をのぞきこむと、小さなハチの美しい姿を目にすることができます。遊んで学べる「サイコロパズル」も子どもたちに大人気で、くるくる回して隠れた昆虫を探しています。



昆虫探検隊の標本コーナー



顕微鏡で観察



サイコロパズル

2. プラスチック封入標本作りに挑戦

8月7日(日)には、人博のミュージアムティーチャー長谷川太一先生を迎え、昆虫のプラスチック封入標本作りを実施しました。自分たちで捕まえた昆虫をプラスチック樹脂で徐々に固めていきます。昆虫の名前を調べ、ラベルを作り、標本の中に入れていきました。一日がかりの作業になりましたが、みんな根気強く取り組んでいました。



長谷川先生から説明



プラスチック樹脂の流し込み



完成(キョウトアオハナムグリ)

2週間くらい乾燥させた後、ケースから取り出し、耐水ペーパーで磨くとピカピカになります。子どもたちも大事そうに自分の作品を持って帰りました。

3. 博物館実習生、奮闘中！

今年も15名の大学生が博物館実習にやってきました。博物館の裏方として学芸員の仕事や埋蔵文化財の取扱い、子どもたちとの折り紙など、毎日貴重な体験をしています。

「思った以上にいろんな仕事があるんですね、びっくりしました！」と京都府立大学の田中さん。



昆虫絵画の展示作業



出土遺物の水洗



子どもたちと折り紙



拓本と注記



戦後60年の企画にむけてインタビュー



ロビー展示の様子

実習後半は、戦後60年のロビー展示に向けて準備をしています。博物館ボランティアの人たちから、「家の周りに朝顔のつるをめぐらせ、灯りが外に漏れないようにしていました。」「疎開していたときよりも、戦争が終わってからのほうが食糧不足でたいへんでした。」という声を聞き、戦争中の貴重な体験を展示にいかそうとグループごとに準備を進めています。

4. 昆虫絵画コンクール展

市内外の小中学生から624点にのぼる昆虫の絵が応募されました。子どもたちの感性豊かな作品を当館2階ギャラリー（北側）に展示しています。昆虫展といっしょにお楽しみ下さい。 観覧無料（1階の企画展は有料です）



8月21日（日）まで展示しています。

明石市立文化博物館

編集：永田浩史